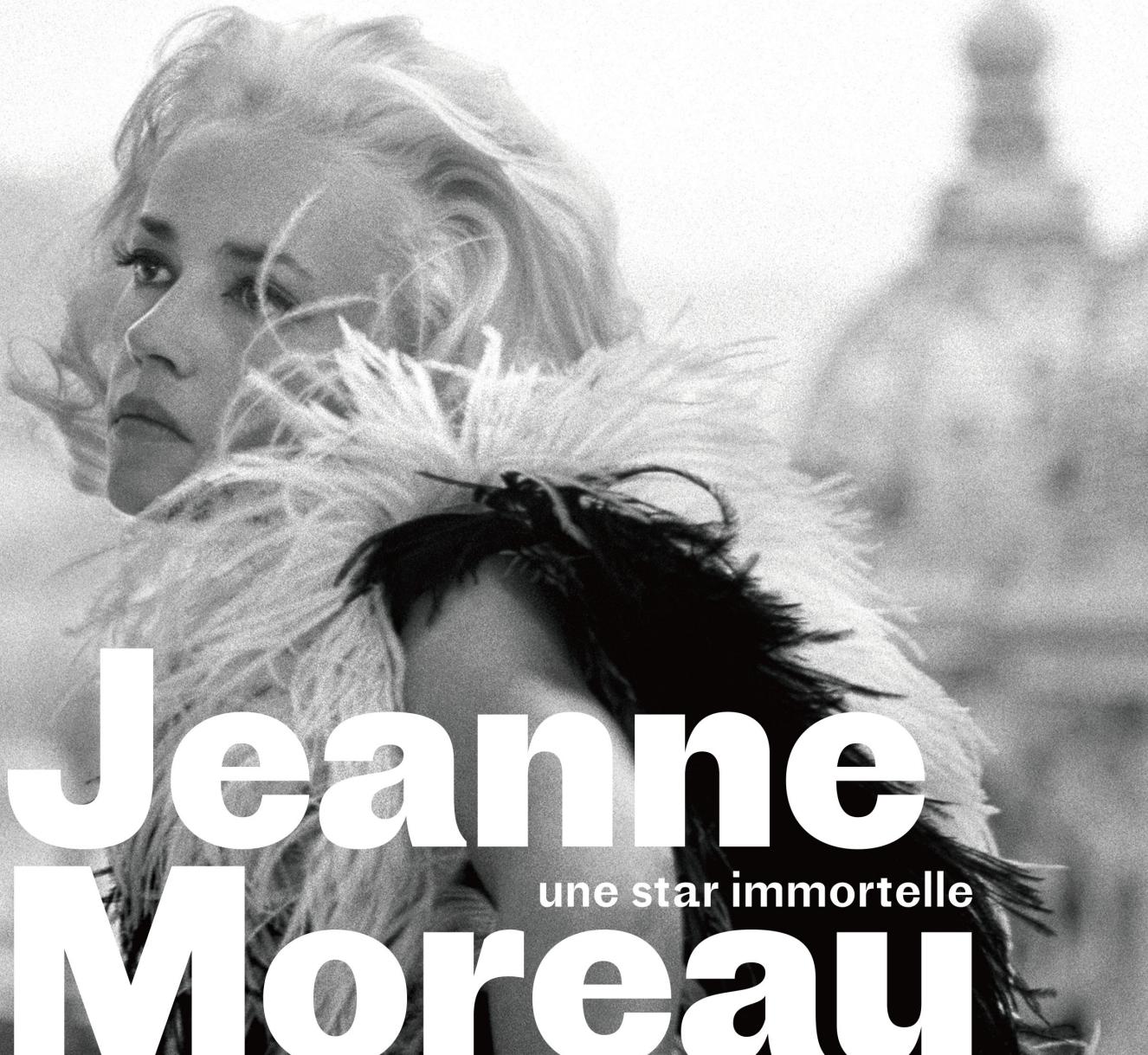


ジャンヌ・モロー追悼特集 不滅のスター

2018年1月19日(金)21日(日)26日(金)

会場: アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ

トークゲスト:須藤健太郎(映画批評家) invité: Kentaro Sudo (critique de cinéma)



美しく、力強い眼差しと一度聞けば決して忘ることのできない声の持ち主、女優ジャンヌ・モロー。ヌーヴェルヴァーグからブニュエル、オーソン・ウェルズ、アントニオニー・ファスピンダー、オリヴィエラまで、70年もの間、現代映画を牽引した監督たちのミューズであり続けたモローの道程は他に例を見ない類い稀なものでした。2017年7月31日に89歳に他界した20世紀の映画の記憶そのものといえるジャンヌ・モローの代表作を上映し、その不滅の魅力、重要性を確認し、追悼いたします。



v i v r e
l e s
c u l t u r e s

現金に手を出すな*Touchez pas au grisbi*

[フランス=イタリア／1954年／94分／モノクロ／デジタル]

監督：ジャック・ベッケル

出演：ジャン・ギャバン、ルネ・ダリー、リノ・ヴァンチュラ

ジャンヌ・モロー

© 1954 STUDIOCANAL - TF1 International - Antares Films



初老のギャング、マックスは、親友のリトンと組んで、5千万フランの大金強奪に成功した。愛人を通じて事件の真相を敵対するギャングは、リトンを捕らえマックスから金を奪おうと画策する。男たちの友情、そして老いを描いたベッケルの傑作フィルム・ノワール。映画女優としてデビューしたモローは、ふたりの男の間を行き来し、自らの魅力にまだ無頓着なまま、犯罪に関わる男たちの運命を翻弄し、闇の中の壯絶な闘いへと導いてしまうコケティッシュな踊り子を演じている。

死刑台のエレベーター*Ascenseur pour l'échafaud*

[フランス／1957年／92分／モノクロ／デジタル]

監督：ルイ・マル

出演：ジャンヌ・モロー、モーリス・ロネ、ジョルジュ・ブーランジュ、リノ・ヴァンチュラ、ジャン=クロード・ブリアリ

© 1958 Nouvelles Editions de Films



社長の側近として手腕を発揮していたジュリアンは社長夫人のフランソワとの不倫の果てに、夫を自殺に見せかけて殺害。完全犯罪を成し遂げたかに思えたが、証拠隠滅のため再び犯行現場に戻ったところ、エレベーター内に閉じこめられてしまう。エル・カレフの小説を元に、ルイ・マル監督が弱冠25歳で手掛けた犯罪サスペンスの傑作。マイルス・ディヴィスが即興セッションで仕上げた音楽も本作を忘れないものにしている。連絡の取れない愛人を探して、愛情と疑いを胸に夜のパリをさまようモローの姿は美しく、あてどなく街を彷彿する現代的女性として、多くの映画人、映画ファンの記憶に刻まれる。

天使の入江*La Baie des Anges*

[フランス／1963年／85分／モノクロ／デジタル&35mm]

監督・脚本：ジャック・ドゥミ

出演：ジャンヌ・モロー、クロード・マン、ポール・ゲール

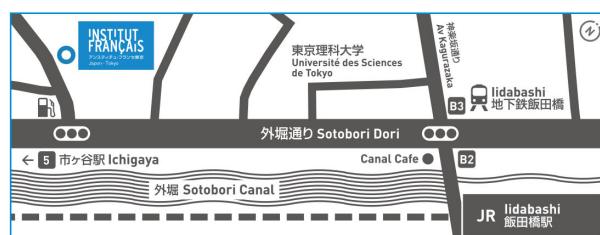
© cine tamaris 1994



パリの銀行員ジャックは同僚の影響でギャンブルに染まり、厳格な父から勘当され、ニースへ。通称“天使の入江”的カジノに通い、ある日いわくありげなブロンドの美女ジャッキーと出会い。ギャンブルに魅せられた男女の、エレガントでデカダンな夏の逃避行を描く愛のドラマ。二人を繋ぎとめるのは、ルーレット任せの偶然？それとも、愛？南仏のひとけのない海岸、アイリスから広がるジャンヌ・モローの姿、それはミシェル・ルグランのテーマ曲を従えながら、永遠に続くキャメラの後退運動によってやがて路上のうちに消え去る。今回は特別に35ミリとデジタルルリマスター版の両方で上映する。

Calendrier 上映スケジュール

1月19日(金) vendredi 19 janvier	16:15	パリの灯は遠く Monsieur Klein (122分)
	19:00	死刑台のエレベーター Ascenseur pour l'échafaud (92分)
1月21日(日) dimanche 21 janvier	12:00	天使の入江 [35mm] La Baie des Anges 35mm (85分)
	14:15	フォルスタッフ Falstaff (116分)
	17:00	現金に手を出すな Touchez pas au grisbi (94分) *上映後に須藤健太郎によるトークあり。
1月26日(金) vendredi 26 janvier	16:30	天使の入江 [デジタル] La Baie des Anges digital (85分)
	19:00	ナタリー・グランジェ(女の館) Nathalie Granger (83分)

**オーソン・ウエルズのフォルスタッフ***Falstaff*

[スペイン=イス/1965年／116分／モノクロ／デジタル]

監督・脚本：オーソン・ウエルズ

出演：オーソン・ウエルズ、キース・バクスター、ジョン・ギールグッド、ジャンヌ・モロー

© Mr. Bongo Worldwide 2015 All Rights Reserved.



『ヘンリー4世』『リチャード2世』などシェークスピア作品でお馴染みの脇役フォルスタッフ、大酒呑みで女たらしの大ボラ吹きの追い剥ぎで、けれども憎めない巨漢の老騎士をウエルズが堂々とした体躯で演じた傑作。合戦場面の暴力描写は、映画史上特筆に値する。モローは野生的な娼婦ドルを妖艶に演じている。早熟な天才映画監督ウエルズの作品をその初期から支持していたモローは彼のミューズ、そして生涯の友人のひとりとなる。本作は『審判』(62)に続きふたりがタッグを組んだ作品で、その後68年に『不滅の物語』が撮られる。

ナタリー・グランジェ(女の館)*Nathalie Granger*

[フランス／1972年／83分／モノクロ／16ミリ]

監督・原作・脚本：マーリック・デュラス

出演：ルチア・ボゼー、ジャンヌ・モロー、

ジェラール・ドバールデュー

© DR



イタリア人女性とその女友達が過ごす昼下がり。娘ナタリーは暴力的な行動がもとで退校させられようとし、ラジオからは逃走中の未成年殺人のニュースが。そこにセールスマンが不意に現れる。外と内が通底する空間としての家。日常の繰り返しの中で洗練された女性たちの動きの簡素さが何とも美しい(デュラスは後に、モローのテーブル上のパン屑を拾い集める仕草の敏捷さ、美しさに感嘆した)。

パリの灯は遠く*Monsieur Klein*

[フランス／1976年／122分／カラー／デジタル]

監督：ジョゼフ・ロージー

出演：アラン・ドロン、ジャンヌ・モロー、シュザンヌ・フロン

ミカエル・ロンダル、ジュリエット・ベルト

© DR



1942年3月、ドイツ軍占領下のパリ。人々は暗く沈んでいたが、美術商ローベル・クライインは、裕福なユダヤ人たちが手放さざるを得ない美術品を安く買いたいていた。ある朝、彼の元にユダヤ人コミュニティの情報紙“ユダヤ通信”が送られてくる。なぜ、ユダヤ人ではない自分宛に送られて来たのか？自分と同姓同名の人間がいて、その男がユダヤ人だとしたら…。すでに『エヴァの匂い』(62)、そして『鱒』(82)でロージー作品に出演しているモローは、短い出演ながら、その超然とした美しい表情の下にすべてが隠されているかのようであり、ドロン演じる主人公の後戻りができない道程が暗示される。

Jeanne Moreau une star immortelle

プログラムはやむを得ぬ事情により変更されることがありますので予めご了承下さい。

*入場料金：一般：1,200円／学生：800円／会員：500円 *開場：各回15分前 *チケット販売時間：上映当日各回の30分前から上映開始10分後まで。全席自由、整理番号順での入場とさせて頂きます。なお、上映開始10分後以降の入場は、他のお客さまへの迷惑となりますので、固くお断りいたします。

*Tarif normal : 1200 yens, étudiant : 800 yens, adhérents de l'Institut : 500 yens *Les billets sont mis en vente 30 minutes avant chaque séance, et jusqu'à 10 minutes après le début de chaque séance, ouverture des portes 15 minutes avant la séance.

ジャンヌ・モロー追悼特集 不滅のスター

主催：アンスティチュ・フランセ日本 助成：アンスティチュ・フランセ日本本部

アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャルパートナー：CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE

フィルム提供及び協力：アダンソニア、アテネ、フランセ文化センター、アイ・ヴィー・シー、ザジフィルムズ

Hommage à Jeanne Moreau, une star immortelle

organisé par l'Institut français du Japon

avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE

Merci à : Adansonia, Centre culturel de l'Athénée français, IVC, Zazie Films

会場：アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ

〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15

tel: 03-5206-2500 fax: 03-5206-2501 www.institutfrancais.jp/tokyo

f アンスティチュ・フランセ東京 institut_tokyo instagram institut_tokyo